

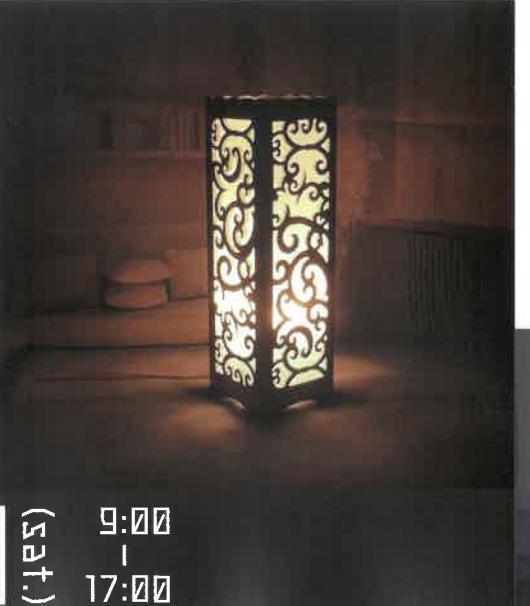
# ASIAN

# CURVING



2019 AUTUMN  
EXHIBITION  
9.25 (Fri) - 11.30 (Sat)

\* 入場無料



# アジアの

# ASIAN

# 彫刻展

# CURVING

10月 06日 (日)

11月 10日 (日)

11月 30日 (土)

## 合同ワークショップスケジュール

会場 みやぎ蔵王こけし館  
受付 10:00 ~ 15:00(最終受付)

※お子様連れ 参加可能

内容は都合により変更となる場合もあります。



● 笹野一刀彫作品・・・おたか三兄弟 (小山 泰弘、佐藤 和憲・和寛)【山形県 米沢市】

1982・83年山形県米沢市生まれ。

山形県米沢市南部の笹野地区におよそ1200年前から伝わるといわれる『笹野一刀彫』を、高橋清雄工人に師事した保育園からの幼馴染三人。和憲・和寛は双子の兄弟。米沢を代表する伝統工芸品の後継者不足に危機感を抱き、2014年より笹野一刀彫を始める。『サルキリ』と呼ばれる独特の刃物一刀で彫り上げていくのが特徴で、鷹を表現した「おたかぼっぽ」が代表作であり三人の名前の由来にもなっている。



● 蔵王一刀彫作品・・・石橋康宏【宮城県 蔵王町】

1982年奈良県生まれ。

奈良に約900年前から伝わる『奈良一刀彫』を五代目・神箸東林氏に師事し、その後結婚を機に、蔵王で独立。東北には無い新たな工芸として『蔵王一刀彫』を始める。『奈良一刀彫』の技法である一刀一刀鑿(のみ)跡を残し、昔から伝わる日本画の技法(岩絵の具・水干絵の具・金箔)を使った彩色を施すのが特徴。

● インドネシア彫刻作品・・・Guntor Halimar Permana【インドネシア】

1989年インドネシア生まれ。

インドネシアにおいてカービング(彫刻)は生活の一部であり、また生まれた地で大きな工房もあったため12歳の時から彫刻を始め、ギターやジェンベなどの楽器への彫刻を始めさまざまな作品を作り続ける。信仰の象徴として生まれた日本の彫刻に対し、インドネシアにおいてはリアリズムを旨とする。

自然の情景や心の動き、それらをカービングとして表現している。



最終入館時間  
Last admission  
- 16:30

Open 9:00 - 17:00  
Close

11:00 - 17:00  
Last admission  
- 16:30

STATEMENT  
「彫刻 (=Curving)」は人類の美術・芸術において最も歴史が古く、およそ5,000年前の古代エジプトのピラミッドの時代まで遡ります。古代エジプトで生まれた石工の技術は、海を渡り古代ギリシャで進化し、かの有名な「ミロのヴィーナス」が生まれました。

現在のパキスタン～アフガニスタンにかけて、紀元前6～11世紀にガンダーラと言う古代インドの國がありました。ここにギリシャのアレクサンロス大王が侵攻したことから、ギリシャ文化の流入が始まり仏像が誕生したのです。アジア圏における彫刻文化のオリジンとなります。それまで宗教は存在していても偶像を作る文化が無かった国々地域へ広まり、さまざまな信仰の中で多様な技術が育まれました。蔵王一刀彫の原点は奈良一刀彫り。言わばと知れた、日本における仏像彫刻のパイオニアです。一方、笹野一刀彫は仏教信仰が隆盛を極めた奈良～平安初期頃、蝦夷討伐で名を馳せた坂上田村麻呂が戦勝祈願に奉納した削り花が起源と言われており、いずれの彫刻の歴史を見ても、日本においては仏教信仰と共に彫刻は育まれてきました。

一方で、インドネシアにおいては同じ島国とは言え、大小さまざまな島が沢山あり、その島ごとに多様な文化が生まれ、それぞれの生きる知恵の一つとして彫刻が育まれてきました。是非、その違いやバックボーンも楽しみながらご鑑賞頂ければ幸いです。